

会 議 録 (案)

1 名 称	平成27年度第3回北九州市子ども・子育て会議
2 議 題	○ 「元気発進！子どもプラン（第2次計画）」の点検・評価について ○ 点検・評価等に伴うアンケート調査について ○ [報告] 認定こども園・確認部会からの報告
3 開催日時	平成28年2月15日（月）14：00～15：00
4 開催場所	A1Mビル新館 3階 304会議室 （小倉北区浅野三丁目8-1）
5 出席した者の 氏名	出席委員（11名）（◎…会長、○…副会長）（敬称略・50音順） 遠藤 禎幸 大久保 大助 北野 久美 黒木 八恵子 権頭 喜美恵 白土 友恵 新庄 希代子 ◎田中 信利 田中 眞弓 村上 順滋 ○村上 太郎
6 議事の概要	次ページのとおり
7 発言内容	次ページのとおり
8 その他	傍聴者なし
9 問い合わせ先	子ども家庭局 総務企画課 企画係 （担当）村上、立石 電話番号 093-582-2280

会 議 録 (案)

6 議事の概要

- ・ 「元気発進！子どもプラン（第2次計画）」の点検・評価について
資料1・2に基づき事務局より説明した。
- ・ 点検・評価等に伴うアンケート調査について
資料3・4・6・7・8に基づき事務局より説明し、質疑・意見交換を行った。
- ・ 平成27年度第1回認定こども園・確認部会の報告について
資料5に基づき、村上副会長より報告があった。

7 発言内容

発言者	内 容
	<p>【開会】14:00</p> <p>○ 会議成立の報告</p>
会長	<p>【議事】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>(1) 「元気発進！子どもプラン（第2次計画）」の点検・評価について、資料1・2に基づき事務局より説明</p> </div> <p>一応、ここで承認というか、審議いただいた上で、平成28年度から向こう5年間、これにのっとった形でPDCAサイクルを回していくという段取りになっている。ですから、ここの委員の方々の最終確認と言っても過言ではない。何か追加すべき意見とか質問等あれば、遠慮なくいってほしい。</p>
委員	<p>恐らく資料6の1番での説明、2番での説明は、前回、私のほうで意見を出したことに対する返答だと思う。私自身も、「大変順調」「順調」うんぬんのこの4段階評価のいい言葉が、適切な言葉が本当に見つからず、あちらを立てればこちらが立たずのような言葉になってしまった。また、市の他の事業がこういった言葉で説明されているのであれば、この案でいくのが適切なのだと最終的には思ったので、これで構わない。</p> <p>それから、その下のところに点線囲みで、前回申し上げたように、本当に過激な言葉ではあったが、「必要悪ってあるのではないか」という言葉が、このように丁寧な言葉に置き換えられていることで分かりやすくなったと言えばそうなのだが、やはり余計なことだが、「遅れ」や「やや遅れ」であっても、それは事業の内容としてはいいのだよということは、評価としてあり。</p> <p>ただ、もう1点これに加えさせていただければ、例えば「大変順調」「順調」というのは、目標の数値に合っているということだと思う。この意味合いからすれば、そういうことになる。「大変順調」とか「順調」というのは、事業計画に立てた数字がおおむねそのように近づいているということが「順調」ということ。では、「順調」がいいのかという評価もあると思う。これは、「遅れて</p>

会 議 録 (案)

	<p>いる」というのは遅れているわけではなくて、Uの字カーブもあるだろうし、これが適切なのかもかもしれないということを明記すると書いてあるわけである。しかし、「大変順調」や「順調」であるからといって、具体的な評価が要らないかといえは要ると思う。確かに数字はそのとおりいったけれども、例えば供給過剰になっていないかとか、そういったことも具体的に文言で理由のところに書く必要もないのかなと思ったときに、ここが「やや遅れ」や「遅れ」であっても、問題はないのかな……と、この四角囲みはいいと思う、とてもありがたい言葉である。だけれども、「大変順調」や「順調」の中身の評価も、そこに適切であるかというような、順調イコール適切ではないのではないかということ、どんなふうに盛り込んだらいいのか…。</p>
会長	<p>何かその点に関して、事務局のほうは。つまり逆のパターンも当然視野に入れて、言ってみれば「順調」「遅れ」という言葉を、あくまでもこれを記号と受け止めて、その本体といいますか、本質的な意味も、そこら辺を表現すべきところは必要ではないのかということですね。</p>
事務局	<p>一応、評価にあたっての大前提として、委員が言われたように、一般論としては「大変順調」「順調」のほうに流れればいいというのは当然あると思う。そういった中で、前回の逆の意味で「やや遅れ」「遅れ」であっても、それはそれで状況によってはいい場合もあるのではなかろうかといった意見を受けて、今回この2行の文章を入れたところである。</p> <p>ただ今のご意見で、また逆に「大変順調」や「順調」でも、中身によっては逆の意味でいいのではないかということについては、そこも表現としては書いていないが、ここの括弧で付けた文章も、ものすごく広い意味で包含されてもいいのではないかと考える。</p>
委員	<p>資料6のNO.7の「誰のための」というところだが、アンケートへのご協力という資料7の中で評価の目的であったり理由を書いてあると思うが、これだとアンケートを受け取った人にしかPRされていないことになると思うので、アンケートの対象になっていない人にも全員に、こういう子どもプランというものがあって、今、こういうアンケートが行われているみたいな形で、もっと分かりやすくなったらよりいいのではないかと思う。</p>
事務局	<p>もちろん、当然ながら、アンケートをするときには、抽出された方にしか紙としては行かないが、我々もPRをするという意味で、例えば市のホームページとかに、こういった文章も全部含めて、抽出した方にこういったアンケートが届くので、ぜひともご協力をお願いしますという、全体に対するPRも併せてやっていきたいと思う。</p>

会 議 録 (案)

委員	<p>いうところでは確かに明確には出てきてないが、この①、②、③の中で、そこはいろいろ工夫をして声を拾うようにしたいと考えている。</p> <p>それから、どういった項目なのかというところについては、先ほど少し説明させてもらったが、どういった内容がいいのかは、まさに今から詰めていきたいと考えている。</p> <p>今、説明があったように、今までずっとこの調査の時に、無作為抽出が本当に主流になっていて、では実際問題そこにいる人の生の声を聞いてもらいたいというのをずっとずっと念じていた。今回、こうやって、①～③のヒアリングとかアンケートの中で、実際の就学前の子どもを持つ親御さんの生の声と、放課後児童クラブを利用している自分たちの声と、子どもたちの代弁者である私たちに声を聞いてもらえるというこの調査の項目を増やしてもらったことは、これは恐らく他府県にはないのではないかと思うくらい画期的な取り組みであると思う。</p> <p>もう1点、先ほど委員の意見にあったが、実際、保育園のほうでも、障害のあるお子さんを預かっている。今年度のことだけで言うと、3歳未満児で判定を受けたお子さんが38名、3歳以上児だと判定を受けたお子さんで277名、こういったお子さんを163カ所の認可保育園で、私たちは一緒に保育をさせてもらっている。また、その障害の判定名も本当に幅が広く、実は一つ一つ追ったら60種類以上の判定名のあるお子さん方をこうやって受け入れているので、もしかしたらその中で少しそういった声を拾うことができるのかなと思う。加えて言うと、判定は受けてないまでも、やはり保育園の中にお子さんで気になるなと保育士が判断した、虐待にも通じかねないという子、あるいは発達に気になるなと判断したお子さんが、今年度の話だけですけれども、3歳未満児全児童7,344人中296人、3歳以上児8,968人中650名、こういった数は判定を受けた以外のお子さんで、やはり発達が気になるお子さん、それから家庭背景で気になるお子さんという数字が、実際に出ている。</p> <p>こんな中で私たちの声を聞いてもらえるのなら、委員も思いだとか、そこに置かれている子どもたちの声を吸い上げることができるのではないかと思い、本当にこの3番目を加えてもらえたとは、感謝している。</p>
会長	<p>私のほうから少し説明させてもらおうと、②、③というのは、この委員会の中で「子どもの視点ということ打ち出しながらきちんと子どもに聞いていないのではないのか」という声がよくあったので、②は委員のご協力になると思うが、実際、放課後児童クラブにいる子どもたちの声を聞くのではないかとすることで、実際こういうアンケート調査を実施しようということになった。</p> <p>それから③、未就学児に対してのアンケートとかヒアリングは難しいので、日頃から側にいる保育士とか幼稚園の先生方に、この子は今こんな気持ちでは</p>

会 議 録 (案)

委員	<p>ないのかな、例えば、お母さんがいなくてさみしがっているのかどうなのかということ、できるだけ子どもの目線に沿って、子どもの代弁者となって、子どもの気持ちをそこからすくい上げてもらいたということで、恐らく委員とか委員のご協力を仰ぐことになるかと思うが、ある意味子どもの側の声を直接聞きたいという意向があり、②、③といったものを実施するようになった次第である。</p> <p>補足的調査の2番目の学童保育クラブの小学生の意見というのは、私も「ああ、すごくいいことだな」と思う反面、そこにおける指導者というか、学童の指導者や児童館の児童厚生員の方々意見も、もう少し聞けたらどうかというのが気になっているところである。</p> <p>私たちも放課後のそういう児童クラブなどに行くと、子どもの意見が採れる所と採れない所があると。採れない所は結構大変な所で、先生たちはよく頑張っている所で、採れる所は比較的落ち着いた所だと思う。そうすると、採れる所しか採れないということになるので、結果、反映できるものではないよなというか、リアリティのある声というのが届かないのではないかなと懸念というか、老婆心ながらそう思うところがある。</p> <p>本当に学童の先生や児童館の先生というのは、放課後の子どもの所で苦勞をされて、今、一番大変なところだと思うので、何かそういった方々の、今の子ども現状に対するコメントだったりそういったものを、私たちも現場に出ながら、一応こういった所で話をさせてもらう機会はあるのだが、毎日、そういう現場に関わっている方に、どうせ現場に出てアンケートを子どもたちに採るのであれば、そういった方々の、実際に関わる方のアンケートというか、ヒアリングというのをご検討いただけたらなと思う。</p>
事務局	<p>確かに、それはそういうことも必要だろうと思うが、今から、例えばクラブでどこを対象にするとか、やはり少ない数ではなかなか難しいというところもあるので、どこら辺の範囲までするかとか、どういった内容をするかとかいうのを、また併せて、今から検討していきたい、その中で指導員の方にどういった調査が適当なのかどうかというのも、併せて検討していきたい。</p>
委員	<p>子どもに携わる保育士さん、先生方の意見を聞いてもらえると、本当に面白いなと思ったのだが、そうなったら小学校の先生、どうなるのだろう。これは大変なことになると思う。大変なことになると思うが、どうなるのかなと。</p>
事務局	<p>先生に聞くということだと、例えば、関係部局の協力を仰ぐということも可能になるので、例えば、我々がアンケートを採って、そこら辺をフォローアップではないが、どういった形でできるかというのを、少し検討してみたいと思</p>

会 議 録 (案)

委員	<p>う。</p> <p>ただ、3番目の保育士、幼稚園教諭の意見というのは、あくまでも子どもの代弁者という意味合いである。これは、私たちの職をどうしてくれとかそんなことではなく、私がずっと言い続けてきたのは、そこに置かれている子ども、物を言えない子どもたちの思いをくめるのは私たちなので、そのあくまでも代弁者としての意見を言いたいということでの、これが叶ったという意味で思っている。委員のおっしゃっている3番の解釈と私が言い続けた3番の解釈が、少しずれているのかなと。ずれているというのは、少し意味合いが、私がずっと言い続けてきたのは、3番を純粹に、代弁者である子どもの声を代わりに言いたいという意味合いだということは、小中高の先生方に聴き取りをするということとは、若干、趣が違うかなと思う。したがって、この3番目は特に画期的な、本当に北九州独自の、子どもに視点を置いたというところがありがたい項目だと思っている。</p>
事務局	<p>小学生も例えば、1年生とか代弁者としての声というのは、もしかしたら出てくる可能性があると思うので、そういう意味で、「フォローアップ」という言葉を使わせていただいた。そういった視点で検討していきたいと思っている。</p>
会長	<p>資料4が成果指標となるものなので、この辺のところは、今度成果指標として適切なものかどうかということも含めながら、ご議論いただきたいと思う。</p> <p>もちろん、全てこの成果指標が絶対的にいい指標というわけではないが、最大限これが、現時点では最善というような項目を挙げさせてもらっている。</p> <p>ちなみにアンケートを今後実際に進める、承認を頂いた後の段取りとか、スケジュールというのはどういう形になってくるのか、少し説明をお願いしたい。</p>
事務局	<p>アンケートのスケジュールについて、少し補足的に説明をする。資料3をご覧ください。資料3の下のところは、ざっくりではあるが、アンケートのスケジュールということで記載させていただいている。本日、承認をいただければ、すぐに、先ほど、説明した作業に具体的に入り、4月の末には、一斉にアンケートの送付をしたいと考えている。5月の中旬までには回収し、その後いろいろ集計等々作業を行い、6月の下旬くらいには集計が終了。7月くらい、こころはまだまだ非常に微妙でだが、上半期間に合うか、少し過ぎるくらいで終わらせたいと、ざっくりではあるが、そういったスケジュール感をもって臨みたいと考えている。</p>

会 議 録 (案)

委員	アンケートを送付する前に、一度、出来上がった内容を拝見させていただくことはできないか。
事務局	アンケートの内容というのは、先ほど説明した3-1と3-2になる。
委員	アンケートと、あと補足的調査もどういった内容なのか、それが確認できたらいいかなと思う。
事務局	補足的調査も、分かった。
会長	ちなみに、補足的調査のほうも、大体アンケート調査と同時並行という形になってくるのか。
事務局	補足的調査は、今回初めてということがあるので、少し4月の一斉送付からは、大体1か月くらい遅れて、取りかかるのかなという考えである。
会長	<p>補足的調査に関して、事務局とも話したのだが、今回初めての取り組みなので、何を聞くか、委員のほうからも質問があったように、実際、どういったことを聞くかというのは、今からスタートしていかないといけないもので、かなりエネルギーがいるところだと思う。</p> <p>特に、単に羅列的に聞くのではなくて、北九州市が子ども・子育てに関して、乳幼児期から児童期、青年期に至るまで、ある程度一貫した子育てに対するビジョンを持ったうえで、例えば、北九州市は子どもの自尊心を高めていくというような1つのポリシーとか何かを持って、それをしっかりと乳幼児期のころ、児童期のころ、青少年のころと、それは必ず外さないで聞くようにしていくとか、そういった北九州市の子育て支援に関するコンセプトを明確にしたうえで、それを具体的な項目に下ろしていくということをししないと、経時的な変化の中で、北九州市のコンセプトがどの程度達成されているかどうかということを見ても長期的に見ていくには、かなり綿密な詰めが必要ではないかと思う。</p> <p>実際はこれから進めるのだが、今、事務局のほうから1か月くらい遅れてと言われたが、もしかしたら、もう少し時間がかかるかもしれない。これは、委員の方々の協力を得ながら、作成していこうかと思うので、その点ご協力よろしくをお願いしたい。</p> <p>アンケートあるいは補足的調査全般に関しての説明だが、このヒアリングとか補足的調査に関して、こういった項目を入れてほしいとか、こういった視点は導入してほしいとか、何かあったら、ぜひともそういったことを参考にしながら、アンケート、インタビュー項目を厳選させていきたいと思う。</p>

会 議 録 (案)

委員	<p>資料3-1の9ページの「すべての方にうかがいます」というのは、ワークライフバランスのことだとは思うのだが、家族の、その家の意向を知りたいという意図ですか。それとも、回答する、男女年齢とか書いているが、その方の意向になるのか。家の中でも、お父さん、お母さんの思いが違ったりとかはしないだろうかと思った。</p>
事務局	<p>アンケートについては、受け取った保護者の方、それがお父様の場合、お母様の場合あるのだが、基本的には答えもらう保護者の方のご意見で、基本的には家庭の中で一つ意見はまとめてもらいたいとは思うのだが、そういったことで、ご回答いただくようお願いしている。</p>
委員	<p>補足的調査の2番目の、「放課後児童クラブを介した小学生の意見」で、この小学生は、1年生から6年生まで満遍なくという感じなのか。</p>
事務局	<p>委員は、今日は残念ながらご欠席なのだが、事前に打ち合わせをした際に、なるべく低学年から高学年満遍なくとは思っているが、実際、やはり自分の意見を持てるのは、4年生、3年生でぎりぎりかなと。だから、クラブによっては学年のばらつきもあるということで、その辺はクラブごとによって、若干変わってくるのではないかというお話であった。なるべく、ばらつきがないようにしたいということであったが、高学年を中心に、ただ、それだけで片寄る場合は、少し答えられる子も含めてという話を頂いている。</p>
委員	<p>アンケートということなので、まだ小学生だから、多分ですけど、自由にお書きくださいというのもあるかもしれないが、少し選択肢があったほうが、小学生とかは特に、自由にというと固まる子とかも結構いるので、いいのかなと。多分、ここの集約は個人個人で投函してもらうという形になるのか。</p>
事務局	<p>集約については、放課後児童クラブのスタッフの方に、アンケートの記入についてもサポートしていただいて、回収もまとめてもらうというやり方を考えている。</p>
委員	<p>結局、放課後児童クラブに対する言いにくいこととかも、小学生なるとあると思う。そこはきちんと、個人が守られるような形で、本当の生の声を、多分、いろいろな思いは小学生なりにあると思うのでしてもらいたい。</p>
会長	<p>ということで、小学生がいろいろ気にするところがあるということ。いろいろ不満があるけれども、言いたいことも言えないという、一応まわりを気にす</p>

会 議 録 (案)

委員	<p>るので、そういったところも含めて配慮いただきたいということだと思う</p> <p>資料3-2の4ページ、多分独身の方に対する質問だと思うが、今日、たまたま生涯学習の方々と話していて面白いなと思ったのが、絵本の読み聞かせ、絵本の意味、そういったものを親になって周産期の時期に伝えていくというのもあるが、実は独身のころからが大事なのかなという話をしていた。</p> <p>独身のころに子育てとか、子どもに対する思いというのはどんなものがあるのかなと。これは、興味本位であるが、何か言葉にする項目というのではないのかなと。どうしてほしいというのはまだ全然固まってはいるのだが、意見として出させてもらった。</p>
会長	<p>結婚以前の時点での、結婚に対する思いとか……。</p>
委員	<p>子育てするのは大変だというのがある。</p>
会長	<p>そうですね、子育てをするのは大変だと。</p>
委員	<p>少しポジティブな項目とか。質問が大体、ネガティブだった。</p>
会長	<p>今の委員の発言を聞いて、ふと思ったのですが、実はアンケート項目がネガティブな聞き方か、ポジティブな聞き方かで、結構、結果に左右されると思う。つまり、子育てするのが大変だという聞き方をするのか、子育ては楽しいとするのかでは違うということ。だから、その辺のところは過去のデータと比較するので、今年度から変えることはできないのかもしれないが、その辺、どうなのか。</p> <p>ネガティブに聞いたほうが、より何かこう、こちらで答えてはまずいかなとってくるのか、あるいはポジティブに聞いたほうが、そこまでないからと否定的なほうにいくのか。こちらとしては、どちらのほうをより優先させて採用するのかということで、これはアンケート調査の難しさだと思う。あまり、そういうところを気にしていないが、今の委員の発言を聞いて、もしかすると、この辺の表現というのは、結構抜け落ちているかもしれないなと思った。</p> <p>ちなみに、他のこのアンケート項目というのは、北九州市独自の文章表現なのか、あるいは他にモデルとなるものと、ある程度整合性というものを付けているのか、その辺のところを参考にしたい。</p>
事務局	<p>この項目については、平均初婚年齢等がだんだん上がっていくと晩婚化の影響で、国も内閣府の調査などで、独身でいる理由というのを尋ねている。そういった内容を主に使っており、そこにプラス、若干、子育ての部分だったり北</p>

会 議 録 (案)

	<p>九州の独自部分も確かに追加されているが、国の部分を踏襲した形にはしている。</p>
<p>委員</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>(3) 平成 27 年度第 1 回認定こども園・確認部会の報告について、 資料 5 に基づき村上副会長より説明</p> </div> <p>小規模保育事業について、意見として、これは幼稚園のほうを代表して意見を言いたい。</p> <p>幼稚園のほうが母体として、小規模保育園を実施している所が数園ある。今、1 年経って、こういうことが問題なのかなと思ったのが、例えば入園の条件として、ポイント制になっている。例えば弟妹児、弟や妹さんがいた場合はポイントをある程度加算して優先的に、親が 2 つの保育園を回るようなことがないようになっている。幼稚園が母体となっている小規模保育園の場合は、弟妹児がカウントされないのです。お兄ちゃん、お姉ちゃんが幼稚園にいる場合は小規模保育園が一つの施設ですから、一つの施設で弟妹児というカウントの仕方をするものですから、お兄ちゃん、お姉ちゃんがそこの幼稚園に通っている場合、同じ敷地内にある施設でありながら、その弟妹児はポイントが加算されないからよその保育園に行かないといけない場合が出てくる。見直しをする時期というのは当然あるかと思うのですが、現実として、もうこういう事例が出てきているのだなということ。実際のところ、そのポイントが加算されたから絶対入園できるとは限らないので、これが全てクリアすることは当然ないかとは思いますが、一つ意見として、見直しするときにあったら、これをぜひ、検討いただきたい。</p>
<p>会長</p>	<p>ちなみに、今、委員にご指摘いただいたのは、行政側として把握されているのか。</p>
<p>事務局</p>	<p>先ほどの件は、ご意見として伺っている。実は、保育所の場合も小規模と本体の保育所に別れている兄弟の場合は、今、優先加点というのは、やっていない現状である。幼稚園だからやっていないとか、保育所だからやっていないではなく、トータル的にやっていない現状である。ただ、兄弟児が別々の園に通う場合、親御さんの負担というのは、我々もおもんばかっているので、今後制度改正の中でいろいろ検討していきたいと思う。ご意見賜りたい。</p>
<p>委員</p>	<p>この主な部会の意見のところだが、問題なのは食事の提供、職員の配置のあり方、研修の実施内容だけではなく、保育そのものだったように思う。保育内容あるいは保育目標のところ、とても乳児保育では考えられない文言等があ</p>

会 議 録 (案)

<p>委員</p> <p>委員</p>	<p>る。だから、ここの中にもう1つ「保育内容」というのが、やはり工夫してもらいたいところである。それから、小規模保育園ではないので。小規模保育事業なので、ここは委員の方も誤解のないように。あれは、一つの独立した施設で、保育園として成り立っている所ではないので、保育事業ではありますが、ですが、やはりこの0～2歳までのとても大切な、人の人格形成期の大事なところを受け持つ、その保育のありようが内容として不適切であれば、やはりこれは注意をしてもらいたいと思うので、この中の意見に、もう1つ「保育の内容」ということを加えてもらいたい。そして、それを併せ持ってフィードバックしてもらいたいと思っている。</p> <p>また、先ほどの委員の件だが、幼稚園のことと保育園のことも、もちろんポイントですから、兄弟児も小規模と連携園が同じ所には入れるわけではないのだが、おおむね幼稚園を利用されているということは1号の判断に…ではなくて。</p> <p>いえ、それが前から言っているのは、ここは苦しいと言わないと駄目なのかということに、前回子ども・子育て会議につながるのだが。</p> <p>希望されているのがどこかということで、親さんの希望の順位もあるので。保育園のほうも、実際兄弟でも、そうやって同じ所には入れているわけではないということも、併せ持ってしっかりとお伝えしたいと思う。</p>
<p>事務局</p>	<p>本日、欠席となった委員から、皆さんに意見を伝えて欲しいという言づてがあったので、紹介させてもらう。</p> <p>昨今、新聞等の報道で、「子ども食堂の事業について」、北九州市も来年度取り組みという報道を見た。それについて、委員のご意見としては、子どもの育ちを保証すること、これは社会の責任であると。草の根の子ども食堂の活動を支えること、あるいは、子どものために何かできることはないかと。風を起すこと。これが、北九州市が取り組む必要があるのではないかと。一応、投げかけということでご意見をいただいている。</p> <p>【閉会】15:00</p>